

令和7年度第2回古賀市健康づくり推進協議会議事録

表題の件につきまして、下記のとおり実施したので、議事録を作成する。

1. 日時 令和8年2月20日（金）19時～20時半
2. 場所 サンコスモ古賀 201・202 研修室
3. 出席委員 中山景一郎 会長、瓜生正 副会長、大越恵一郎 委員、福田知恵 委員、
檜崎兼司 委員、太田雅規 委員、伊藤啓一 委員、黒瀬ゆかり 委員、
小河浩司 委員、金山志保子 委員、矢野ひとみ 委員、蓮尾 隆 委員、田中早穂 委員
4. 欠席委員 南里明子 委員、花田亜紗美 委員
5. 傍聴者 なし
6. 報告・議事
【報告事項】・ヘルスアップぷらんにおける4つの柱と重点的な取組について
・令和7年度取組の進捗及び令和8年度取組の方向性について
7. 資料
【資料1】 4つの柱と重点的な取組みからみる令和7年度一覧表
【資料2】 健康チャレンジ10か条の推進
【資料3】 古賀式私の朝プロジェクト
【資料4】 食を通じた健康づくり
【資料5】 次世代に受け継ぐ食育
【資料6】 食環境づくり
【資料7】 生活習慣病の発症予防（特定健診等）
【資料8】 計る（測る）を取り入れた生活の推進
【資料9】 KASUYA デンタルフェア報告
【資料10】 骨を介した健康づくりの推進
【資料10 別紙】生活習慣結果表
【資料11】 女性ホルモンの変化に応じた健康づくりの推進
【資料12】 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の推進
【資料13】 人材育成と地域活動の活性化
8. 署名

会長	
会長の指名する出席委員	

9. 会議内容

【報告事項】 ヘルスアップぷらんにおける4つの柱と重点的な取組について

事務局よりヘルスアップぷらんの概要及び資料1について

【報告事項】 令和7年度取組の進捗及び令和8年度取組の方向性について

事務局より資料2から資料3について
《意見交換・質疑応答》

委員 : 資料2について、10か条の認知についてですが、43%は低いのですか。もう少し上を目指すのですか。

事務局 : 知っている人の割合が、前回の計画での5%だったんですけれども、今回はできたら15%以上を目指していきたいと考えております。若い人の認知度が低いので、集中的に出来たらいいと考えています。43%ですね。少しずつ上がってきているかなとは思っていますが、若い人の認知度が低いので、若い方に集中的に周知していきたいと考えています。若い世代への周知についてどのように周知方法があるかをご意見ください。

委員 : 若い世代というのは学生、20代、30代にですか。

事務局 : 若い世代や働く世代を中心に関心を持っていただきたいのが1番で、大学生や中学生ぐらいまではこちらから介入ができるのですが、その後の介入がなかなか会う機会がなく、支援方法をお教えてください。

委員 : 資料3について、今後の古賀市で働く人に働きかけるとあったのですが、各地域で産学官連携会議みたいな会議はないですか。あれば活用するイメージになります。

事務局 : 朝活プロジェクトでは、株式会社明治、西日本新聞社や福岡工業大学と一緒にプロジェクトを組んで、いろいろな世代に啓発をしているところです。

委員 : 資料3の朝活プロジェクトに参画させていただいて、先ほど質問がありました通り、若い層ですね。働き盛りの世代、職域でのポピュレーションが必要ですね。いままで、健康意識が高い方へのリサーチだったので、どうしても偏っている。新たなことをやろうとすると、こういった産学官連携が有効じゃないかと思います。今、プロジェクトでは議論を進めているところです。いろいろな部署がかかわらないとできない、その仕組みづくりを協力いただいて、広い世代にひろがるプロジェクトになるんじゃないかなと考えています。

委員 : 今朝食を食べていない若者って結構多いと思います。職域にかかわっていくことは重要だと思います。うまく連携して、産学官って言いましたが、地域職域連携協議会ですね。多分そういった働く世代を巻き込む場があると思うので、そういった場を利用してください。

事務局より資料4から資料9について

《意見交換・質疑応答》

委員 : 資料7について、勤労世代に対する周知がない出来ないという話ですが、その一つの方法では、難しいと思うので健康イベントやイオンの福津店などでイベントなど実施しているようですが、今の若い世代の方は家庭を非常に大事にするので、運動会等イベントでの啓発、アピールの場を広げてもいいのではないですか。

事務局 : 運動会での啓発は思いつかなかったです。どうしてもデジタル系を使った周知を考えがちですが、今の世代は家庭を大切にしているので、家族が参加するイベント等での周知も大切だと思います。今後の事業を組み立てる参考にさせていただきます。

事務局より資料10から資料12について

《意見交換・質疑応答》

委員 : 資料12について、健康状態不明者に非常に興味があります。日頃救急車で運ばれてくるんですが、不明者のデータベースは何ですか。75から79才の方を抽出しているということですが、孤独で家に引きこもっている方100%対象者になりますか。

事務局 : 国保データベースシステム(KDB)でレセプト、介護情報が見れるので、ある程度は抽出できると思います。特に一人暮らしで、病院に通院していて途中から通院が確認できない方などが、孤独死されていた事例もあります。生存確認をふくめて訪問しています。

委員 : 僕たちも救急をやっている、この人今までどうしていただろうという状態で来る方もおられます。ぜひ100%対象者を抽出していただけると助かります。警察の検死とかでも呼ばれていくのですが、こういう方は孤独な方ですね。警察でも100%対象者を確認できているかということ、そうでもないと来ています。

事務局 : 80才以上の方は包括支援センターに名簿をお渡しし、家庭訪問や色々は事業に活用していただいています。

委員 : 保健師さんなどが訪問に行ってもらっているとは思いますが、地域にもそういった仕事をしている方がいるとは思いますが、地域に住んでいるものからするとすごい不思議な現象があります。いろいろな理由で組に入れていない方もいるとは思いますが、そういった方は地域での対象とはならないのですか。そういう対象が、保健師の対象となり、訪問に行くわけですか。受け渡しとかはどうなっているのですか

事務局 : 自治会離れというのは課題ではありまして、今までは隣近所で見守りができて、ごみ出しなど難しくなってくれば、お互いの支援をしながら生活していたのですが、最近はお隣も何しているかわからない。特にマンションなどは住んでいる方がわからない状況が発生しています。通いの場などで、ポピュレーションアプローチなどを行っていますが、地域の福祉会や地域包括支援センターなどと連携しながら課題を共有し、話し合いをしていることです。

委員 : 男性の1人暮らしの方など栄養など考えずにお腹がいっぱいになったらいいといった方もいらっしゃいます。家から出ない孤独死もあると思うのですが、現場に即してお年寄りの事を考えてほしいと思います。健診にこれない理由もあると思います。交通の問題があるし、薬のこともある。公民館など借りやすい仕組みができないか。

- 事務局 : なるべく、医療機関から、健診から、地域の輪から離れないように支援をしているところ
です。孤独死というところがあるので、社会福祉協議会の方の意見をいただければと思いま
す。
- 委員 : 福祉会の中で福祉員での見守り活動を推進させてもらっています。自治会から外れた方な
ど対象にならないところもあつたりします。そういったところは、民生員さんがカバーされ
ている現状です。
福祉員さんからの見守りから外れてしまう方もいると思います。社会福祉協議会の方で総合
相談や困りごと相談などを受けています。孤独死の発見にもなっています。
連携が非常に大事になるんじゃないかと思っています。地域と行政をつなぐ役割として果た
せたらいいかと思っています。
- 委員 : 資料 12 に関連するかと思いますが、保健事業と介護予防の一体的に高齢者に対しての啓
発ということで、健康チャレンジ 10 か条を使っていますよね。今色々やっている中で保健
事業と介護予防で重複することもあるし、すべて一緒じゃないけれど高齢者の方から見ると
2 つ別のものがあるような印象でよくわからないようです。今後の取組の中で、健康チャレ
ンジ 10 か条におけるフレイルの位置づけとか、健康チャレンジ 10 か条をどのように活用す
るかなど、整理されたほうがいいと思います。
- 事務局 : ゆいの事業が介護予防的なところで、健康づくり係が保健事業健康づくりというところを
担ってたんですけど、せっかく同じ係に保健事業と介護予防的な事業を実施しているので、
来年度は一緒にできる事業を考えています。例えば、出前講座に健康測定と体力測定を一
緒にし、地域に出向いていこうと考えています。
- 委員 : 東京の国立長寿センターの先生が言っていましたが、数値だけに左右されずに、生活を見
るようにとのことでした。
- 事務局 : 身体的フレイルの測定メニューは、国立長寿センターの先生が監修されている日本版のフ
レイル測定項目や質問票を実施する予定です。健診を受けなくても、地域の出前講座な
どで、評価指標を合わせてみていく予定です。

10. その他

- ・次回推進協議会開催日程について

令和 8 年度も 2 回実施する予定（日程決まり次第ご連絡）